

港区「地域こぞって子育て」かわら版

みんなで聞こう・いっしょに話そう ♡ みんなで なかよく とりもとう！



こぞってさん©

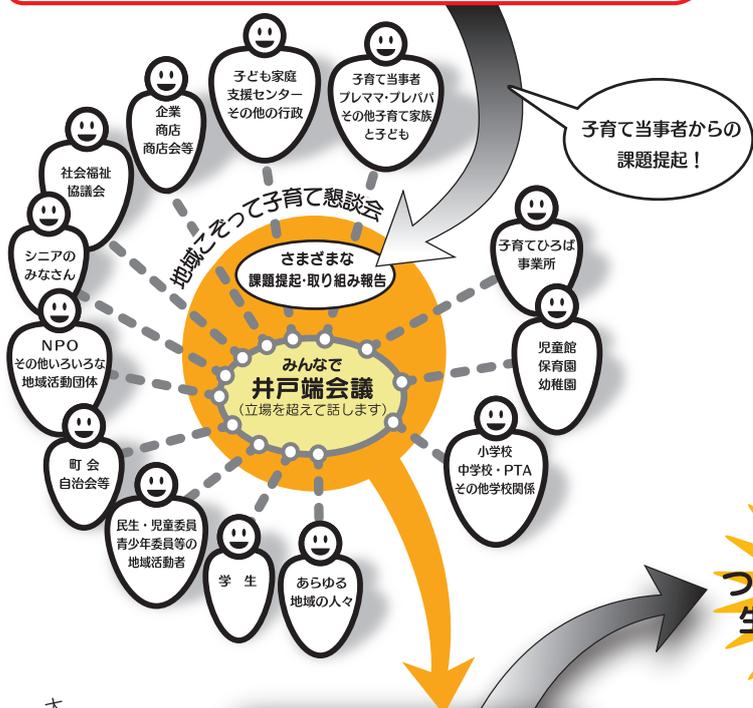
港区地域こぞって子育て懇談会は、地域の子育て・子育て環境向上のため、子育て中の人たちと、地域で応援するよ～という多様な人たちが、共に集う場です。

毎年1月に開催しています。2015年度は159名の参加があり、以下の5つのテーマで対話をしました。

(このかわら版は報告書のダイジェスト版です)

地域こぞって子育て懇談会実行委員会

子育て中のママ・パパ、子育て支援関係団体、学生、港区立子ども家庭支援センター
明治学院大学社会学部附属研究所ソーシャルワーカー、その他



- 1 2015年度井戸端会議のテーマ
- 2 <親子参加型企画> み～んな集まれ! ふれあい遊びを楽しもう☆
- 3 <大学生企画> 子どもの孤立 ～大人が知らない子どもの実態～
- 4 就学前の子どもとの過ごし方 ～ライフスタイルの違いをこえて～
- 5 小学生になるとどう変わる? どう変わった? ～知りたい!話したい!～

つながることで生まれたもの

地域こぞってネットワーク会議

みなと子育てメーリングリスト

ここから、いっぱい資源を生み出したい!

施策やサービス・たくさんの仲間・子育て支援&子育て応援関係者のネットワーク・ひとりぼっちで子育てしない安心のまち...

対話から共働へ...

懇談会と地域こぞってネットワーク会議での出会いからコラボレーションが生まれています。活動進行中!!

参加から行動へ

参加が、行動へつながることをめざしています。

地域で対話の場を促すファシリテーターへ

人と人の縁をつなぐ、「とりもつ人(びと)」へ

できることから行動する「地域人(ちいきびと)」へ

企画は実行委員会が担っています!

2015年度実行委員会は、ママメンバー10名、パパメンバー5名、子育て支援関係者6名、学生メンバー18名、子ども家庭支援センターと明治学院大学社会学部附属研究所スタッフ5名の構成です。

ママ・パパメンバーのほとんどが港区在住者です。実行委員の子どもたちは、赤ちゃんから、保育園児・幼稚園児・小学生・中学生・高校生・大学生まで、あらゆる年齢層です。「子育て」の課題や悩みは、乳幼児期だけのものではありません。2015年度懇談会の企画も、多様な実行委員が、5つのテーマの企画をしました。

2015年度 港区地域こそって子育て懇談会 5つの井戸端会議より

井戸端会議 ①

多世代・地域・つながり

～10代と話そう！子どもっていつから大人？～



10代の子もたちと様々な世代の大人たちが、共に話して理解を深め、子どもたちを地域の小さな市民として迎える場になることをめざし、対話の場をもちました。
協力：チャレンジコミュニティクラブ / 港区立高陵中学校生徒会 / 東海大学付属高輪台高校・中等部生徒会 / 明治学院高校校長

主な話題

「多世代カフェ」をオープン。10代～70代までの男女が世代・立場を超えて、思うこと・感じることを和気あいあいと話しました。テーマ①は、「子どもっていつから大人？大人になったと感じた経験は？」10代も大人も、大人になったと感じる時は、人によって様々でした。テーマ②は、「10代をどうして子ども扱い？大人扱い？」心配する気持ちから子ども扱い、自分で責任もてることは大人扱い。でも、子どものなかにはいつまでも子どものままでいたい気持ちも。そんな思いを共有しました。テーマ③は、「子どもと大人、いっしょにどんなことができそう？」具体的なアイデアより、まずは大人と子どもが知り合い、対話する機会が大事だね、という声が多く聞かれました。

多世代との対話からいろいろな気づき（思ったより話が弾んだ、対話して理解が生まれる、中高生は理解力・聴く力があり対等に話せる、でも日常では関わりがほとんどない他）と、「これから、こうりたい」が出されました。参加者の世代を問わず、「こういう場がもっとあるとよいね」という声が数々残されたことは、「多世代カフェ」開店の成果です。子どもは子どものまま、大人は大人のまま、そのままの姿で「友だち」になれるような、話しやすい空気や機会をつくることを、大人たちはもっと意識したいです。世代を超えた「地域のつながり」を求め、つくっていきましょう！

井戸端会議 ②

＜親子参加型企画＞ み～んな集まれ！ ふれあい遊びを楽しもう☆



乳幼児とふれあうためのアイデアとヒントが満載です！？おもちゃがなくても遊べちゃう！遊びを楽しみたい人・遊びのレパートリーをふやしたい人・子どもとふれあいたい人誰でも大歓迎の、本懇談会初の親子参加型企画を行いました。

主な話題

ふれあいや遊びの大切さについて、はじめに共有しました。それは、「遊びで大切にしたいのは『嬉しい』『楽しい』の気持ち。失敗しても『楽しい』『またやりたい！』というチャレンジする心が育つことにつながっている」ということです。子どもといっしょに遊べる企画ということから気軽に参加してくれ、お父さんも複数でした（6組中5組）。参加親子は、港区内に転居後間もない方が多く、近所や公園をもっと知りたい、遊びのパリエーションを増やしたい等いろいろと情報を集めていました。大事だといわれる「ふれあい」が、具体的にどのくらい必要かを手遊びや歌遊びで体験しました。紹介した遊びは、覚えやすい歌で年齢に応じて遊び方を変え、乳児から幼児期まで遊べるもの（紹介例：手遊び「一本橋こちょこちょ」「おせんべいやけたかな」歌遊び「チキンダンス」）、広い場所や道具がなくても親子で遊べる体操のほか、乗り物に乗っている時や退屈して騒ぎそうな時に気分を変え手作り遊びグッズも紹介しました。

子どもとふれあって遊ぶことを通し、その子なりの成長を感じていきたいですね。また、この懇談会への参加から、さまざまな世代が子育てに関心をもち、見守りの目があることを感じるきっかけになってほしいです。

井戸端会議 ③

＜大学生企画＞ 子どもの孤立 ～大人が知らない子どもの実態～



気づかないうちに、都心の子どもたちは竟ぐことのできる居場所を失ってきています。子どもが子どもらしく過ごせているのか、子どもの社会的孤立の実態を「子どもの心」を残した「大人目線」の大学生が報告し、いっしょに考えました。
報告者：明治学院大学法学部鍛冶智也教授ゼミ生

主な話題

私たち鍛冶ゼミ生は「子どもの孤立」について、港区は特有の問題を抱えていると考えています。塾や習い事を含めた「子育てサービス」は、親の子育てに対する満足度を高めメリットも多いですが、一方で多様なサービスによって子どもたちの生活時間がコマ切れになり、地域から隔絶されるような傾向にあります。公園や子育て施設など目が届くように配慮された環境づくりは進んでいる一方、一人ボツンと「孤食」をしている子どもがいても誰も声をかけないという現状もあります。監視型社会がつくられ、無関心も蔓延してきます。仲の良い子たちだけで固まってしまい外的世界に無関心で、主体性をもって行動しにくい、こうした問題は現代の子どもたちの特徴であり、大人たちにとって自身に覚えのある実態ではないでしょうか？行政や民間が多種多様なサービスを提供することで、社会的・経済的には豊かな恵まれた環境になりますが、一方でサービス利用が「受け身の子育て」を引き起こしてしまう危険性も報告者としては感じています。港区は、多様な価値観を認め合うコミュニティですが、困ったときの助け手が近くにおり、それぞれが居心地のよい居場所をもって生活できて自己実現ができ、社会的に孤立させない社会づくりには何が必要なのか、じっくり話し合いました。

井戸端会議 ④

就学前の子どもとのすごし方

～ライフスタイルの違いをこえて～



一人で子育てを背負わずに子どもと向き合う工夫はいろいろあります。育休を取得した男性、保育園ユーザー、幼稚園ユーザーなど、ライフスタイルの異なる子育て経験者のお話を聞きながら、子どもと過ごす時間について語り合いました。
話題提供者：上野志摩さん（元保育園ユーザー）、中鉢康子さん（元幼稚園ユーザー）、石平達也さん（育児休暇を取得 / 保育園ユーザー / 実行委員）

主な話題

元保育園ユーザー・元幼稚園ユーザー・育休取得した男性の経験をお聞きしながら、子どもとのすごし方の工夫や課題を話し合いました。グループトークは、幼稚園ユーザーと保育園ユーザーに分かれた後、混合で話しました。どちらのグループも、「家事と育児の家庭内の分担」が共通の話題で、ほかに幼稚園グループは「幼稚園選択のための情報」「やってよかった習い事」、保育園グループは「子どもとの時間の確保」が話題となりました。

幼稚園 / 保育園等の情報を入手し、より自分の考えに合致した場を見つけない、と同時に、そこでの親同士の関係づくりへの不安等も語られました。同世代の似たライフスタイルの人とだけでなく、近所の高齢者・子育て経験者など多世代の人とつながれる居場所、子ども同士が異年齢でかかわり合える遊び場において、ゆとりある子育てを感じる方もいました。親として限られた時間を子どもとどう向き合い、愛情を注ぐのか。親だけで背負わず、親だからと気負わず、周りを見渡せばヒントや資源がありそうです。家族や友人はもちろん、地域の人々の子育てを応援しようという気持ちや声かけなど、何気ない日常の中で温かい気持ちを親子で感じながら過ごしていきたいですね。

井戸端会議 ⑤

小学生になるとどう変わる？どう変わった？

～知りたい！話したい！～



小1の壁！？に思わず自分なりに対応できるよう、みんなでも聞いて、話して、「楽しい小学校生活」にする疑問や知恵、情報を交わし、共感する場をめざし、親とともに小学生を見守る方もいっしょに話しました。
話題提供者：金本伸一さん（青山児童館館長）
西崎伸彦さん（元小学校 PTA 会長 / 現東京都中学校 PTA 協議会総務理事 / 実行委員）ほか

主な話題

＜入学準備について＞
小学校はこれまでと違い、親元を離れる時間が増えます。入学までに歯磨きや着替え等を自分で行う、交通ルールを守るよう親子で通学路を散歩する等の準備をしましょう。新しいことへのチャレンジには失敗はつきもの。少しずつ練習し、できたらたくさん褒めて。親も、いざという時にお願いできる関係を近所でつくる等の準備をしていきましょう。
＜入学後のお話：PTAって何？＞ PTAは、保護者と教師がいっしょに子どもの幸せの実現をめざし、互いに学び合いながら活動する会。それぞれの委員会に特徴があります。得意分野や生活スタイルに合った委員会を選びましょう。何よりも大切なのは、保護者が PTA 活動を楽しむことです。親が楽しむ姿を見て、子ども達は「社会は温かく自分たちの将来は明るい」と感じることでしょ。

話題提供を受けた後、入学前後、卒業後など子どもの年齢が異なる保護者が様々な視点から、入学前後で変わること・できることについて話をしました。「学力よりも、生活面や人と関わる力、体力などの方が大切だと思った」「自分が把握できないことも、子どもとの会話が窓口になり、向き合える時間にもなる」という声が多かったです。

2016年度への展望

港区地域こそって子育て懇談会 「来年こんなふうになりたい!!」

子育て特有のテーマや 子育て環境向上を 問い続ける場でありたい

- ・子育て世代の居場所として有意義な場、子育て世代がしつかりつながる場であり続けたい。
- ・同時に、子どもといっしょに参加できる場、子どもの声をもっと取り入れる場でもありたい。
- ・今後も、子育て当事者や子ども自身が「気になる」ことをテーマにしたり、見えにくい課題も話せる場をつくっていききたい。例えば、孤立している人へのアプローチなど。

多世代・多文化にわたる 「地域こそって」感 ひろげたい

- ・子育て世代がつながるだけでなく、多世代が同時に出会える貴重な場であり続けたい。
- ・老若男女、どの世代とも、外国などの多文化を背景にする人たちとも子育てを考える場に、そして、今「子ども」時代を生きる小さな市民たちと対話できる場に。

参加から行動へ・・・ 実行委員仲間を ふやしていきたい

- ・中高生の参加を得られたが、企画もいっしょにしてみたい。
- ・ひきつづき大学生にもかかわり続けてほしい。
- ・ババの参加、もっとふやしたい。

もっと話したいから、.. 11年目以降の 次なるステージ 検討へ

- ・分科会方式はテーマが深められてよい。継続する定番テーマができるのもよいだろう。複数テーマを少しずつ体験できるような工夫も考えたい。子どもと楽しむ交流会もまた検討したい。
- ・あらためて「みんなでも聞こう・いっしょに話そう」と、参加者全員（150人？）でのワールドカフェなんていうアイデアも試みたい。

2016年度
地域こそってネットワーク会議

2016年6月24日(金)
18:30~21:00 (予定)

2016年度の詳細は、
港区立子ども家庭支
援センターへお問い
合わせください。

2016年度
港区地域こそって子育て懇談会

2017年1月28日(土)
13:00~15:30 (予定)

みなと子育てメーリングリスト

へ登録しませんか?

こそってから生まれました!

地域の中のつながりをつづけよう~地域の中の子育て情報を共有しよう~という、情報発信用のメーリングリストです。

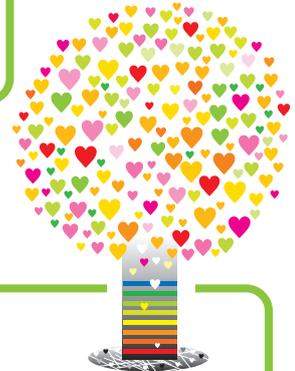
みなと子育てネット Wa.Wa.WaML 事務局が運営管理して
います。港区の事業ではありません。

「子ども」「子育て支援」「親子」「地域」などをキーワードと
する情報を交換しましょう!

登録希望の旨とお名前・所属(ある方のみ)を書いてメールしてください。

お名前を必ず書いてくださいね(お名前がない場合は受け付けられません)

登録は minatokosodate@gmail.com



これまでの 港区地域こそって子育て懇談会のテーマ

■2005年度

(明治学院大学社会学部附属研究所市民講座として実施)
都心で子育てまっ最中! ママ・パパからの発信
~子育てをささえる地域創りとは~

■2006年度

みんなで聞こう・いっしょに話そう
「子育てをささえる地域創りとは」

■2007年度

「急募! 子育てにやさしい店と街」

■2008年度

「つながりの輪をひろげたいなあ」

■2009年度

「まちに顔見知りがあると安心できるね」

■2010年度

「まちの中に、あなたや子どもの居場所ありますか?」

■2011年度

「みんなで始めたいね となりの人とのつながりづくり」

■2012年度「つながること生まれるもの」(6つの分科会)

- ①“人と人”“地域”がつながる、みんなでつくろうネットワーク・コミュニティ!
- ②外遊び! みんなで考えよう
- ③家庭教育を話そう! ~子どもたちに伝えたい大切なこと~
- ④多世代・地域・つながり~つながる機会への参加を考えよう~
- ⑤家族が増えるとうどう変わる? ~知りたい! 産前産後のあれこれ~
- ⑥子育て・家庭・地域 etc. な~んでもしやべり場

■2013年度「みんなでなかよくとりもとう」(6つの分科会)

- ①多世代・地域・つながり~子ども時代を遊びきる~
- ②ゲーム・スマホ etc. のトラブル急増中! どうする? 親は? 子どもは? ~現役中高生といっしょに考えよう! ~
- ③家族が増えるとうどう変わる? ママ・パパの期待と不安 ~家族が楽しく生きるには~
- ④どの子もすてしやすい地域づくり ~子どもの発達の課題に視点をにおいて~
- ⑤大学生の放課GO! ? ~地域の子育て、大学生にできること~
- ⑥子育て・家庭・地域 etc. な~んでもしやべり場

■2014年度「みんなでなかよくとりもとう」(6つの分科会)

- ①多世代・地域・つながり~子育ての今と昔~
- ②20代・30代の考える家族や子育て
- ③子どもの貧困~港区の実態と課題~
- ④家庭教育を話そう~思春期のイロイロ~
- ⑤どの子もすてしやすい地域づくり~発達の課題に視点をにおいて~
- ⑥子育て・家庭・地域 etc. な~んでもしやべり場

本かわら版に関するお問い合わせは、
右記へご連絡ください。

本かわら版は、「2015年度港区地域
こそって子育て懇談会報告書」の
ダイジェスト版です。報告書をご希望
の方も右記へご連絡ください。

港区立子ども家庭支援センター

〒108-8315 港区三田 1-4-10 TEL03-6400-0090

明治学院大学社会学部附属研究所

〒108-8636 港区白金台 1-2-37 TEL&FAX03-5421-5205

Eメール issw@soc.meijigakuin.ac.jp

刊行物発行番号 27311-4840